

授業概要

本演習では、日商簿記3級受験の指導をします。対象者は主に春期「教養演習Ⅰ」を受講した学生です。夏季休暇中に猛勉強をし、すでに日商3級の練習問題は、解答可能の状況になっていることが前提です。試験勉強のコツは春期と同様ですが、今期は「合格」という結果をいかに出すかに焦点を当てていきます。授業の前半は、検定試験に向けた総合問題を中心に答案練習を行います。後半は試験の合否で、3級合格者は工業簿記を開始し、不合格者は翌年の2月に向け再挑戦の準備に入ります。よってこの「演習Ⅱ」は、次年度の「基礎演習」＝日商簿記2級合格にもつながる内容です。1年次に日商簿記3級合格、2年次に2級合格を、そして3年次には1級に合格へとつなげます。

授業計画

| | | |
|------|----------------------------|------------------|
| 第1回 | ガイダンス、小テストを実施し成績順座席指定をします。 | |
| 第2回 | 総合問題 ①合計残高試算表の作成 | |
| 第3回 | 総合問題 ②残高試算表の作成 | |
| 第4回 | 総合問題 ③残高試算表の作成 | |
| 第5回 | 総合問題 ④精算表の作成 | |
| 第6回 | 総合問題 ⑤精算表の作成 | |
| 第7回 | 総合問題 ⑥貸借対照表と損益計算書の作成 | |
| 第8回 | 総合問題 ⑦貸借対照表と損益計算書の作成 | |
| 第9回 | 中間試験 | |
| 第10回 | 3級合格者：日商簿記2級工業簿記開始。 | 3級再挑戦者＝2月受験の準備開始 |
| 第11回 | 工業簿記の勘定連絡図の把握 | 問題集①仕訳・精算表 |
| 第12回 | 費目別計算（材料費、労務費、経費） | 問題集②仕訳・試算表 |
| 第13回 | 個別原価計算 | 問題集③仕訳・精算表 |
| 第14回 | 総合原価計算 | 問題集④仕訳・試算表 |
| 第15回 | 標準原価計算 | 問題集⑤仕訳・精算表 |
| 第16回 | 定期試験 | |

到達目標

- ・「日商簿記検定3級試験」の合格レベルに達すること。
- ・3級試験は、11月の統一試験の他、ネット受験もお勧めします。

履修上の注意

- ・学習の目標を明確にすること。例：在学中に日商簿記1級に合格するなど。
- ・秋期「中級簿記」を履修登録してください。
- ・Outlook 予定表（カレンダー）に日々の学習時間を記録し、時間管理を徹底せよ。
- ・成績順の座席指定制。

予習・復習

- ・『2021年度版 スッキリわかる 日商簿記3級 本試験予想問題集』を3回転以上、繰り返すこと。

評価方法

- ・授業への参加意欲と中間試験40%、定期試験60%で総合評価をします。
- ・授業態度不良者は「不可」とする。

テキスト

- ・教科書名：『2021年度版 スッキリわかる 日商簿記3級 本試験予想問題集』
- ・著者名：滝澤ななみ 監修/TAC出版開発グループ 編著
- ・出版社名：TAC出版
- ・ISBN：9784813296263

授業概要

この演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習では、自分で自分の課題を見つけ、考え、解決に向けて進む意欲を持つこと、また社会への関心、国際的な視野を獲得することができるように指導する。

授業計画

| | |
|--------|-------------------|
| 第 1 回 | 本演習の進め方や評価方法 |
| 第 2 回 | 新聞や雑誌の読み方と使い方 |
| 第 3 回 | 専門的な文章の読解力の向上① |
| 第 4 回 | 専門的な文章の読解力の向上② |
| 第 5 回 | 専門的な文章の読解力の向上③ |
| 第 6 回 | 専門的な文章の読解力の向上④ |
| 第 7 回 | 専門的な文章の読解力の向上⑤ |
| 第 8 回 | 文章の要約力とレジュメの作成① |
| 第 9 回 | 文章の要約力とレジュメの作成② |
| 第 10 回 | 文章の要約力とレジュメの作成③ |
| 第 11 回 | 各自のテーマによる調査発表と討論① |
| 第 12 回 | 各自のテーマによる調査発表と討論② |
| 第 13 回 | 各自のテーマによる調査発表と討論③ |
| 第 14 回 | 各自のテーマによる調査発表と討論④ |
| 第 15 回 | 各自のテーマによる調査発表と討論⑤ |
| 第 16 回 | まとめ |

到達目標

この演習は、豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることを念頭に置き、大学における学習に必要な基礎的学力を向上させることを意図としている。

履修上の注意

- ・ 毎回必ず出席してほしい。
- ・ 演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。

予習・復習

- ・ 配布資料を事前に目を通しておくこと
- ・ 発表や講義の要点をまとめること

評価方法

レジュメの作成と発表、課題提出、ゼミでの積極性などを総合的に評価する。

テキスト

- ・ 開講時に指示する。
- ・ 必要に応じて、資料を配布する。

授業概要

テクノロジーの急速な変化や感染症の蔓延などにより、世界はどのように変化していくのかについて理解を深めることを目的とする。具体的には、今後私達の生活はどのように変わっていくか、社会はどのように変化していくのか、それらに伴い、どのような企業が求められていくのか、インベーションが必要となるかについて、業界研究を行いながら学ぶ。さらに、人の幸福の条件についても考えを深めていく。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------|
| 第 1 回 | 人生 100 年の時代の到来 |
| 第 2 回 | 地球全体でヒト、モノ、カネ、ショウホウが動く時代 |
| 第 3 回 | 言語、人種、肌の色、国籍もなく、皆地球人 |
| 第 4 回 | 業界研究 ① 宇宙ビジネス |
| 第 5 回 | 業界研究 ② ビッグデータ |
| 第 6 回 | 業界研究 ③ 自動運転 |
| 第 7 回 | 業界研究 ④ VR (仮想現実) |
| 第 8 回 | 業界研究 ⑤ 再生医療 |
| 第 9 回 | 業界研究 ⑥ スポーツビジネス |
| 第 10 回 | 業界研究 ⑦ フードビジネス |
| 第 11 回 | 国民総幸福量 (GNH) |
| 第 12 回 | 技術革新と幸福 |
| 第 13 回 | 競争社会と幸福 |
| 第 14 回 | 格差社会と幸福 |
| 第 15 回 | グローバル化と幸福 |
| 第 16 回 | 試験 |

到達目標

- ・新ビジネスについて理解を深める。
- ・イノベーションの必要性について理解する。
- ・経済と幸福の関係について理解を深める。
- ・幸福と経済の関係性に影響を与える諸要因について理解する。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎します。

予習・復習

毎回授業前に予習をし、振り返りのための復習を単元終了後に行うこと。

評価方法

発表点 (25 点)、レポート点 (25 点)、試験 (50 点)

テキスト

- ・教科書名：『日経業界地図 2021 年版』
- ・著者名：日本経済新聞社編
- ・出版社名：
- ・出版年 (ISBN)：

授業概要

日本、アメリカなど主要国に所在する大企業の多くは、今日、本国のみならず諸外国でも活発に生産、販売などの活動を行っています。世界各国で活動をおこなう企業は、世界企業、多国籍企業などと呼ばれています。この演習では、日本を代表する世界企業群を個別に取り上げて、国際化の理由、活動内容、現時点の課題などについて、資料に基づき検討します。

日本の企業の国際化について、事例を踏まえて学習し、企業とは何か、国際化とは何かについて、基礎的理解が得られるように指導します。

授業計画

| | |
|--------|---------------------|
| 第 1 回 | はじめに一演習の進め方 |
| 第 2 回 | 日本企業の海外進出の現状 |
| 第 3 回 | トヨタ自動車 |
| 第 4 回 | 日産自動車 |
| 第 5 回 | ホンダ技研工業 |
| 第 6 回 | パナソニック |
| 第 7 回 | ソニー |
| 第 8 回 | ファースト・リテリング (ユニクロ) |
| 第 9 回 | セブン・イレブン |
| 第 10 回 | サントリー |
| 第 11 回 | 資生堂 |
| 第 12 回 | レポートとは何か。何をどう書くべきか。 |
| 第 13 回 | レポートの発表と討論 (1) |
| 第 14 回 | レポートの発表と討論 (2) |
| 第 15 回 | レポートの発表と討論 (3) |
| 第 16 回 | 試験 |

到達目標

第 1 に、資料を読み込み、これに基づいて発表し、討論できるようになることです。第 2 に、日本企業の海外進出、外国での活動についての現状を知ることです。第 3 に、自分の研究テーマを見つけ、それについて資料を探し、レポートに仕上げることです。

履修上の注意

- (1) 病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください (アドレスはのちに伝えます)。遅刻の場合は理由を説明してください。
- (2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。

予習・復習

事前に配布する資料をよく読んで予習してきてください。演習の終了後は、何を学んだか、資料などを読み直して復習してください。

評価方法

テキストの報告と討論への参加で 40%、提出されたレポートで 30%、試験 30% で評定します。

テキスト

教科書の使用は予定していません。学習・討論資料を予め配布します。

授業概要

テーマ：マーケティングとスポーツマーケティング

マーケティングとスポーツマーケティングの最も基礎的な考え方を勉強し、その関係について考えます。誰にでもわかっているはずの「常識的な言葉」の意味をおろそかにせず、ひとつひとつをきちんと自分たちで点検し、自分の頭で考えることの楽しさを身につけたいと思っています。

授業計画

| | |
|--------|--|
| 第 1 回 | 演習の概要 |
| 第 2 回 | マーケティングとは何か (1)：マーケティングの多様な定義と顧客のニーズ・欲求の区別 |
| 第 3 回 | マーケティングとは何か (2)：マーケティングにおける理念、戦略、管理 |
| 第 4 回 | マーケティングとは何か (3)：サービスのマーケティングとは何か |
| 第 5 回 | スポーツマーケティングとは何か (1)：スポーツとは何か |
| 第 6 回 | スポーツマーケティングとは何か (2)：「観る」スポーツと「する」のマーケティング |
| 第 7 回 | スポーツマーケティングとは何か (3)：サービス・マーケティングとスポーツ・マーケティング |
| 第 8 回 | マーケティングの事例研究 (1)：コンビニエンスストアのマーケティング |
| 第 9 回 | マーケティングの事例研究 (2)：ディズニーランド・マーケティングの調べ方 |
| 第 10 回 | マーケティングの事例研究 (3)：マーケティングと消費文化 — バレンタインデーは日本独自？ |
| 第 11 回 | スポーツマーケティングの事例研究 (1)：Bリーグの立上げとマーケティング |
| 第 12 回 | スポーツマーケティングの事例研究 (2)：Jリーグクラブのスポンサーと地域貢献 |
| 第 13 回 | マーケティングの理論研究 (1)：マーケティング・コミュニケーションの理論 |
| 第 14 回 | マーケティングの理論研究 (2)：マーケティングと「物語」 |
| 第 15 回 | スポーツマーケティングの理論研究 (1)：スポーツブランドの独自性 |
| 第 16 回 | 期末レポート (各自のプレゼンテーション) |

到達目標

スポーツ、マーケティング、スポーツマーケティングの最も基本的な概念を理解しながら、それぞれの実態をイメージ豊かに捉えられるようにし、同時に、それぞれの理論の基礎を勉強します。実態にせよ、理論にせよ、自分で考え、自分で調べられる能力を身につけることを目指します。

履修上の注意

- ◎Googleなどを使ってインターネットで調べるという行為は、現代の勉強の入り口です。各自調べられるようにしてください。
- ◎マーケティングも、スポーツイマーケティングも、世界からの影響の中で、わが国独自の在り方が作られてきていますので、日本語のウェブサイトだけでなく、英文のウェブサイトを調べることを嫌がらない態度が望ましいといえます。
- ◎期末レポートとして、各自、パワーポイントを利用したプレゼンテーションを行なっていただきます。それぞれ使えるようにしておいてください。
- ◎演習は出席が必須です。30分以内の遅刻は認めますが、遅刻3回で欠席1回分にカウントされます。また、やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡するようにしてください。

予習・復習

事前にわたす資料などを演習前によく読み、演習終了後には復習してください。また、予習・復習のためにネットなどで調べることは必須です。

評価方法

演習への出席を前提とし、演習への討論など参加態度 (25%)、演習で出された課題の遂行の状況 (25%)、最終期末レポート (50%) によって評価します。
演習では、積極的に疑問や意見を述べる学生、および英文資料をいやがらない学生は、高く評価されます。

テキスト

テキストは使わず、適宜、資料を配ります。また、インターネットで調査したウェブサイトを利用します。参考文献が必要な場合は、とりあえず、以下をご参照ください (情報メディアセンターに所蔵されています)。
◎薄井和夫『現代のマーケティング戦略 — はじめて学ぶマーケティング基礎篇 — 』・『マーケティングと現代社会 — はじめて学ぶマーケティング応用篇 — 』大月書店、2003年
◎中澤真・吉田政幸編『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年

授業概要

1年次の教養演習は、2、3、4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅱでは学生のプレゼンテーションを前提とした演習を行う。その際の題材は、例年、学生が選択した興味関心のある事項としているが、話し合いの上、統一的なものにすることもある。また、就職に係わる情報は常に意識してもらうように心掛ける。この点で、上記とは別に時事問題に関する新聞記事等を使用した演習を行うこともある。

授業計画

| | |
|------|--|
| 第1回 | 演習での姿勢とレジュメについて |
| 第2回 | テーマの選択と資料収集について |
| 第3回 | 時事問題（夏季休業中の出来事）を考える① |
| 第4回 | 1回目のテーマに基づくプレゼンテーション |
| 第5回 | // |
| 第6回 | 1回目のプレゼンに関係したその続きのテーマの検討 |
| 第7回 | 時事問題（その時点での出来事）を考える② |
| 第8回 | 2回目のテーマに基づくプレゼンテーション |
| 第9回 | // |
| 第10回 | 時事問題（その時点での出来事）を考える③ |
| 第11回 | 3回目のテーマに基づくプレゼンテーション |
| 第12回 | // |
| 第13回 | レポートの章立てと結論について（可能であれば「パワーポイント」資料の作成を含む） |
| 第14回 | 提出するレポートの途中経過の報告 |
| 第15回 | 修正したレポートの内容確認 |
| 第16回 | レポート（場合によっては定期試験） |

※ 人数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

プレゼン用のレジュメを作成でき、それに基づいた質疑応答ができるようになる。

履修上の注意

人数が少ない場合には、会計ないし経営に関する文献の輪読やレポートを交える。
テーマは上記のとおりだが、到達目標に示したように、講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的に発言等をしてもらう。

予習・復習

毎回ではないが、事前に下調べを行い、発表のためのレジュメを作成してくる。
プレゼン後にレポート提出のための修正を行う。

評価方法

平常点45%・レポート（定期試験）55%程度で評価する。
なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない。

テキスト

ゼミ生が選ぶテーマによっては使用するかもしれないが、特に使用しない予定。

授業概要

本演習の目的は、教養演習Ⅰと同様に、1年生の基礎学力の向上と大学生として必要な知識の蓄積にある。発表、プレゼンテーション、共同研究を通して、文献の調べ方、報告内容のまとめ方、レジメの作り方、発表時の言葉遣いなどをマスターし、思考力、表現力、協調性、コミュニケーション能力の向上を目指す。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション（授業内容、授業方法、評価方法などの説明） |
| 第 2 回 | 春期を振り返る：何が身につき、何が不足しているのか |
| 第 3 回 | 個別テーマ：目標設定①——大学でどんなことを学びたいのか。 |
| 第 4 回 | 個別テーマ：目標設定②——将来どんな仕事をしたいのか。 |
| 第 5 回 | 統一テーマ：10年後浮かぶ業界、沈む業界① |
| 第 6 回 | 統一テーマ：10年後浮かぶ業界、沈む業界② |
| 第 7 回 | 統一テーマ：行動経済学とは何か①——解説 |
| 第 8 回 | 統一テーマ：行動経済学とは何か②——映像 |
| 第 9 回 | 統一テーマ：行動経済学とは何か③——応用 |
| 第 10 回 | グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題① |
| 第 11 回 | グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題② |
| 第 12 回 | グループ研究：キャッシュレス社会の利点と課題③ |
| 第 13 回 | 個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由） |
| 第 14 回 | 個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由） |
| 第 15 回 | 個別テーマ：プレゼンテーション（テーマ・題材が自由） |
| 第 16 回 | 期末試験 |

到達目標

- ①基礎学力がアップする
- ②テキストの内容を理解し、要点を整理し、発表できるようになる。
- ③経済学・経営学の基礎知識を身につける。

履修上の注意

無断欠席・遅刻はしないこと、議論に積極的に参加することを求めます。

予習・復習

与えられた課題の発表について、しっかりと準備してください。

評価方法

授業態度、積極性、発表内容、期末試験を総合して評価する。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

授業概要

経済学の著名な学説が、果たして現実の経済現象をどのように説明することができるか否かに関する文献を輪読して経済学や経済現象の基礎を学びます。基本的には、ゼミ生全員が毎回教科書の指定された箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきたいと思っています。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

| | |
|--------|-------------------|
| 第 1 回 | コンコルドの誤謬 |
| 第 2 回 | 囚人のジレンマ |
| 第 3 回 | 最後通牒ゲーム |
| 第 4 回 | ナッジ理論 |
| 第 5 回 | 自信過剰の法則 |
| 第 6 回 | プロスペクト理論 |
| 第 7 回 | アダム・スミスの「神の見えざる手」 |
| 第 8 回 | マルクスの資本論 |
| 第 9 回 | ケインズの一般理論 |
| 第 10 回 | リカードの比較優位理論 |
| 第 11 回 | 渋沢栄一の道徳経済合一説 |
| 第 12 回 | シュンペーターの技術革新論 |
| 第 13 回 | フリードマンのマネタリズム理論 |
| 第 14 回 | MMT 現代貨幣理論 |
| 第 15 回 | ピケティの貧富格差論 |
| 第 16 回 | 課題レポートの提出 |

到達目標

経済学の学説と現実の経済現象との関係を理解したうえで報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施できることを目指します。

履修上の注意

予習、復習をきちんとすることと、毎回出席することを求めます。

予習・復習

指定された文献や資料を事前に理解するとともに、各回のゼミ終了後に内容を復習することを求めます。

評価方法

ゼミでの発表や発言（50%）、課題レポート等（50%）に基づき、総合的に評価します。

テキスト

- 教科書名：『教養として知っておきたい 33 の経済理論』
- 著者名：大村 大次郎
- 出版社名：彩図社
- 出版年 (ISBN)：2020 年 5 月 (ISBN 978-4-8013-0452-9) 本体 1,300 円＋税

授業概要

経済や経営の場では、様々な問題に直面する。経済学や経営学は、そうした問題に対処するためにどうしたら良いかについて、多くの知識を蓄えるための学問である。多くの問題は、過去に発生した同種の問題にどのように対処してきたかについて学べば、解決する。その時に必要なのが、データ処理である。過去の状況と現在のそれとは大きく異なる。過去にあって成功した事例も、現在に置き換えればうまく機能しないこともある。それは何故か、そして、ならばどのようにすれば良いか、については、データ集めで情報処理をする必要がある。本演習では、その導入の部分について、考察したい。

授業計画

| | |
|--------|-----------------------|
| 第 1 回 | はじめに（データ処理の有効性と有用性） |
| 第 2 回 | パソコンはどのようにして動いているのか |
| 第 3 回 | 基本ソフト（OS）とアプリケーションソフト |
| 第 4 回 | 表計算ソフトとは何か |
| 第 5 回 | Excel でできること、できないこと |
| 第 6 回 | まずは、表を作成しよう |
| 第 7 回 | 続いて、グラフを作成しよう |
| 第 8 回 | どのデータにはどのグラフが効果的か |
| 第 9 回 | 相対番地と絶対番地 |
| 第 10 回 | コピーを有効に使おう |
| 第 11 回 | 金利計算が簡単にできる方法 |
| 第 12 回 | 単利と複利 |
| 第 13 回 | 返済金を決定するのは、金利と返済期間 |
| 第 14 回 | 国債の利回りの計算方法 |
| 第 15 回 | 70 の法則 |
| 第 16 回 | 試験 |

到達目標

本演習では Excel を用いた情報処理ができるかどうか、が重要なテーマである。データを示されて、何を計算しどのように計算するのか、が的確に理解できれば目標達成である。

履修上の注意

演習を進めるにあたって、次の演習内容はその前の演習内容を理解していることを前提に進めることになる。欠席はしないようにすること。やむを得ず欠席する場合は、前の演習の内容を理解しておくこと。

予習・復習

つねにパソコンの Excel に触れておくことをお勧めする。演習で用いたもの以外のデータを処理してみることである。

評価方法

試験で、データを示し、的確にデータ処理できるかどうかを確認する。

テキスト

今のところ考えていないが、ブルーバックスあたりの新書を教科書に指定することも考えている。

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかりと持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになり、自分の将来像を描けるようになって欲しい。

授業計画

| | |
|------|---------------------------------|
| 第1回 | 本演習の概要と自己紹介 |
| 第2回 | チームビルディング |
| 第3回 | チームビルディング |
| 第4回 | 文献を読もう |
| 第5回 | 文献を読もう |
| 第6回 | 文献を要約しよう |
| 第7回 | 文献を要約しよう |
| 第8回 | 大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる |
| 第9回 | 大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる |
| 第10回 | 自分の適性を知り、将来の進路について考える |
| 第11回 | 自分の適性を知り、将来の進路について考える |
| 第12回 | プレゼンテーション資料の作成 |
| 第13回 | プレゼンテーション資料の作成 |
| 第14回 | プレゼンテーション |
| 第15回 | プレゼンテーション |
| 第16回 | 振り返り |

到達目標

- ・課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- ・社会の時事問題などに関心を持つ。
- ・大学での学び方を習得する。
- ・自分の将来についてしっかりと考える。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかりと持つことにある。よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取り組みや課題・レポート・プレゼンテーションの内容などにより総合的に評価する。

テキスト

指定しない。

授業概要

本演習では日本の経営をより深く理解するための準備として、戦後史を中心とした日本経済の変遷と特質を学びます。日本経済は日本の経営の環境要因であり、日本の企業経営が日本経済を支えているという点において、経済と経営の関係は相互に不可分といえます。

経営学は生きた学問として身につけなければなりません。歴史的視点を加えることも重要です。日本的経営の環境要因としての日本経済は、過去から積み重ねられた歴史的産物であり、時代の一区切りとして戦後日本経済の移り行きを経営環境の変遷という視角から考察することは、経営学を歴史的かつマクロ面から理解する上で有益と考えられます。

国内外における銀行、メーカー、商社 3 業種での講師の勤務経験を生かして講義を行います。最新テーマや時事的な話題を可能な限り多く盛り込みます。

学んだ知識をもとに日本経済新聞や経営関連誌を自主的に読み進めることは必須であり、講師は強くこれを奨励します。

授業計画

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 第 1 回 | ガイダンス —経済と経営— |
| 第 2 回 | 日本経済の発展(1) —占領期から復興期— |
| 第 3 回 | 日本経済の発展(2) —高度成長期— |
| 第 4 回 | 日本経済の発展(3) —国際化と経済摩擦— |
| 第 5 回 | 日本経済の停滞(1) —バブル崩壊— |
| 第 6 回 | 日本経済の停滞(2) —構造改革の試み— |
| 第 7 回 | 日本経済の構造問題(1) —日本的経済システム— |
| 第 8 回 | 日本経済の構造問題(2) —少子高齢化と労働市場— |
| 第 9 回 | 日本経済の構造問題(3) —社会保障制度の概要— |
| 第 10 回 | 日本経済の改革(1) —日本の農業改革— |
| 第 11 回 | 日本経済の改革(2) —アベノミクスと成長戦略— |
| 第 12 回 | 経営環境としての日本経済(1) —戦後日本経済史と日本的経営— |
| 第 13 回 | 経営環境としての日本経済(2) —日本の産業構造と経営戦略— |
| 第 14 回 | 経営環境としての日本経済(3) —日本の労働市場と日本的労務管理— |
| 第 15 回 | 演習のまとめ |
| 第 16 回 | 期末試験 |

到達目標

本演習の到達目標は、履修者が戦後日本経済の変遷と特質を経営学的な視点から修得することです。本演習を通して経済と経営の不可分な関係を認識するとともに、歴史的観点から経済および経営事象を捉えることに習熟できれば、将来、履修者が企業を中心とする組織に属した際に直面するであろう様々な環境変化の本質をより的確に判断する能力が得られると考えます。

履修上の注意及び予習・復習

演習で取り上げるテーマをもとにレジメの該当箇所について議論する場合、履修者は積極的に参加することが求められます。演習に参加するにあたっては、Teams に貼付するレジメを読んでおくことが必要となります。遅刻はやむを得ない理由がある場合には配慮します。

評価方法

毎回の講義ごとに出される課題レポートの結果を 70%、演習への参画度や取り組み姿勢を 30%の割合で評価します。

テキスト

テキストはレジメを使用します。参考文献は各講義で明示します。

授業概要

社会に出て仕事をしていると、その仕事に関する専門的知識だけでなく、その周辺の知識も含め、一定以上の水準の知識が必要とされます。(もし、それらの知識を知らない場合は・・・)したがって、それらの知識を知る必要があります。ただし、そのような知識を効率的・効果的に身に付けるためには、世の中の情報を「正しく」知り、その中の重要な点(「本質」)を発見する技術を備えていることが必要とされます。(「本質」でないものを身に付けてしまうと・・・)さらに、社会に出て、仕事を含め、充実した毎日を送るには、「私は、これを知っている!私にはこれができる!」というようなことが一つでもあると、毎日の仕事が楽しく、達成感を味わうことができます。

そこで、この授業では、そうした知識の習得をし、及び、そのための基本的技術を学びます。

授業計画

| | |
|--------|----------------------|
| 第 1 回 | GAFA と巨大 IT : ①規制問題 |
| 第 2 回 | GAFA と巨大 IT : ②課税問題等 |
| 第 3 回 | SDGs : ①企業経営 |
| 第 4 回 | SDGs : ②産官学協働 |
| 第 5 回 | インダストリー4.0 |
| 第 6 回 | 移動革命と自動車 |
| 第 7 回 | 水素社会と未来 |
| 第 8 回 | コンビニの将来 |
| 第 9 回 | キャッシュレス化 |
| 第 10 回 | スタートアップ新時代 |
| 第 11 回 | 暗号資産 |
| 第 12 回 | 少子化と高齢者問題 |
| 第 13 回 | 外国人との共生 |
| 第 14 回 | 宗教と国際政治 |
| 第 15 回 | 市場の再構築 |
| 第 16 回 | 期末レポートの提出 |

到達目標

次の知識の習得、そのための技術を学びます。①主として、経済、経営分野を中心とする知識。②その知識を得るために必要となる効果的な作業(技術)とは何か。③そのテーマの本質や真の問題点は何か。

履修上の注意

特定のテーマを決めて、記事や社説、論文等読み、次の点を自ら(及びグループで)調べて、発表していただきます。自分が就こうとする職業に関連する事項は何か、という意識を日ごろから持つようにして下さい。ネット、ニュース等の時事ネタ等も含め、興味を持つ用語を考えるようにして下さい。前述の「授業計画」の1から15までに掲げた事項(テーマ)は、前後したり、カットすることがあります。また、履修生から特定のテーマの希望がある場合には、上記のテーマを変更します。なお、教員からは、前述「授業計画」に掲げた種々のテーマについて資料を配布しますので、その中から選ぶことでも、よいです。

予習・復習

毎回予習復習を指示します。授業時間が90分だとすると、この他に、合計4時間程度を、自宅等での予習復習(その内容は、[理解・訓練・実行]ことです)に充てて下さい。毎日の生活においては、常に、新聞、ニュースの動きを、チェックする習慣を身に付けて下さい。

評価方法

テスト、レポート、発表等への配点が80%、授業での発言、貢献等の積極性が20%の配点です。

テキスト

特になし(授業で独自資料を配布しますので)

授業概要

本学のデータサイエンス科目群にはこれからの情報社会において必要な知識・技能を修得するための科目が揃っていますが、科目として提供されていない分野があります。それは情報セキュリティ分野です。DX（Digital Transformation）や Society5.0 などにより変革された先端情報社会を安心安全な状態で過ごすには、情報セキュリティの知識は必要不可欠です。そこで、この教養演習Ⅱでは、将来の進路に関わらず、常識としての情報セキュリティを体系的に学びたい方向けに、標準的な教科書を輪読する方式で情報セキュリティについての知識を提供いたします。

授業計画

| | |
|--------|--|
| 第 1 回 | はじめに（教養演習Ⅱの目標と進め方：情報セキュリティとは）・自己紹介 |
| 第 2 回 | セキュリティの概念と対策の方針①（情報セキュリティ7要素・ガイドライン・リスク） |
| 第 3 回 | セキュリティの概念と対策の方針②（情報資産・脅威の種類・脆弱性・人為的不正） |
| 第 4 回 | サイバー攻撃への対策①（攻撃者・手法1） |
| 第 5 回 | サイバー攻撃への対策②（手法2・パスワード） |
| 第 6 回 | サイバー攻撃への対策③（マルウェア） |
| 第 7 回 | サイバー攻撃への対策④（スパイウェア） |
| 第 8 回 | サイバー攻撃への対策⑤（標的型攻撃） |
| 第 9 回 | サイバー攻撃への対策⑥（Web ブラウザ） |
| 第 10 回 | サイバー攻撃への対策⑦（サーバー1） |
| 第 11 回 | サイバー攻撃への対策⑧（サーバー2） |
| 第 12 回 | サイバー攻撃への対策⑨（乗っ取り） |
| 第 13 回 | サイバー攻撃への対策⑩（高負荷・プログラムの脆弱性） |
| 第 14 回 | セキュリティ確保の基礎技術 |
| 第 15 回 | 情報セキュリティ管理 |
| 第 16 回 | 情報セキュリティ対策のまとめ |

到達目標

- ・情報社会においてはどのようなリスクがあるかを知る。
- ・情報セキュリティ対策として、具体的にどのようなことを行えばよいのかを理解する。

履修上の注意

コンピューターに関し一定の知識を求められるので、コンピューターに関する何かの科目を履修済みか履修中である方が好ましいです。

予習・復習

予習：教科書の次回の内容に目を通しておいてください。
発表者は、内容の説明ができるように準備しておいてください。
復習：演習で学んだ内容を復習しましょう。

評価方法

発表態度（40%）・期末レポート（60%）に基づき評価します。

テキスト

- ・教科書名：『図解即戦力 情報セキュリティの技術と対策がこれ1冊でしっかりわかる教科書』
- ・著者名：中村行宏・若尾靖和・林静香
- ・出版社名：技術評論社
- ・出版年（ISBN）：978-4-297-12106-8（2021年5月21日）

授業概要

これから4年間、専門分野の勉強するために役立つ経済・経営・IT分野の興味ある事柄について、春期に引き、書籍、新聞、雑誌等から素材を求め、皆で読み、意見をまとめ、討論し、自己の興味、将来の進路を考えるための機会としたい。現在、AI(人工知能)、ロボット、IoT(インターネットとモノのつながり)、Fintech(金融と情報技術融合)などデジタルエコノミー社会が進行し、大きな社会変革をもたらしている。こうした流れや技術革新の動きを共に捉え、日本の経済、社会に及ぼす影響について考えてみたい。なお、ゼミ生との相談により、学習の内容に変更がでることもある。

授業計画

| | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 本演習の授業の目的、方法、評価についての説明と学生から状況を聞く。 |
| 第 2 回 | 大学の学びは、自己の興味、将来の進路に備える勉強であるかについて討論する。 |
| 第 3 回 | 情報技術を中心とした変化に注目し、日本経済への影響を分析する |
| 第 4 回 | デジタルエコノミー社会、AIなど学生の興味ある本を選択し各自読み、感想文にまとめる |
| 第 5 回 | 第 1 回目に選択した本について、内容と感想をまとめる(1) |
| 第 6 回 | 第 1 回目に選択した本について、内容と感想をまとめる(2) |
| 第 7 回 | 第 1 回目のまとめとして、メンバー間で感想や意見を話し合う。 |
| 第 8 回 | 第 2 回目に選択した本について、内容と感想をまとめる(1) |
| 第 9 回 | 第 2 回目に選択した本について、内容と感想をまとめる(2) |
| 第 10 回 | 第 2 回目のまとめとして、メンバー間で感想や意見を話し合う。 |
| 第 11 回 | 第 3 回目に選択した本について、内容と感想をまとめる(1) |
| 第 12 回 | 第 3 回目に選択した本について、内容と感想をまとめる(2) |
| 第 13 回 | 第 3 回目のまとめとして、メンバー間で感想や意見を話し合う。 |
| 第 14 回 | 3冊読んだ中から1冊を選んで各自その本の要点や特色を発表する |
| 第 15 回 | 本演習を学んでの自己で考え・判断し・表現することの大切さを再考する |
| 第 16 回 | 総合的な質問時間、レポートの作成方法を学ぶ |

到達目標

現代の経済、社会の動きなどを捉え、自ら考え・判断し・表現できる能力の育成を目指す。
現代の情報技術に興味をもってこれらの分野の勉強に自学自習する能力の育成を目指す。

履修上の注意

前もって資料を渡すので、よく読んでくること。場合によっては、Zoomによるオンライン授業をおこなうこともある。

予習・復習

前もって資料を渡すので、よく読んでくること。3回ごとに勉強した内容を、自己の意見を入れレポートにまとめ出させていただきます。

評価方法

課題提出 30 点、報告内容 20 点、最終課題レポート 50 点

テキスト

本学の図書館にある本を使用して、学生の選択で本を選ぶ。必要に応じて、適宜推薦図書を紹介する。

授業概要

本演習では、受講生には2~3名のチームを組んでもらい、講義内の事例研究に対するグループディスカッションやグローバル企業における経営分析のプレゼンテーションなど、自分で考えて発言する機会を多く設けることで知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とする。

また、新聞、雑誌などの教材によって経済・経営の基礎を学ぶことで、社会人になった後でも活用できるよう指導する。さらに、学外授業で実践的な経営手法を体感することで、現実の経営事象を理解する力を身に付けることを目指している。

授業計画

| | |
|--------|---------------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | プレゼンテーションとは何か、関心のあるグローバル企業の分析項目 |
| 第 3 回 | プレゼンテーション成功の秘訣 |
| 第 4 回 | グローバル経営におけるビジョン、経営戦略 |
| 第 5 回 | グローバル経営におけるマーケティング |
| 第 6 回 | グローバル経営におけるリスクマネジメント |
| 第 7 回 | グローバル経営における M&A |
| 第 8 回 | 有価証券報告書の財務諸表 |
| 第 9 回 | 経済新聞、ビジネス雑誌の読み方 |
| 第 10 回 | 経済新聞、ビジネス雑誌のトピックをレポートにまとめる |
| 第 11 回 | 学外授業 |
| 第 12 回 | 学外授業 |
| 第 13 回 | 学外授業に関するレポートと討議 |
| 第 14 回 | プレゼンテーションと討議 |
| 第 15 回 | プレゼンテーションの修正と最終発表 |
| 第 16 回 | 定期試験 |

到達目標

- ・大学生としての基礎力である「書く、伝える、話す」を修得する。
- ・問題、課題を抽出し解決する能力を身につける。
- ・グローバル企業の経営内容を分析し、パワーポイント資料にまとめて発表することで、プレゼンテーション力を修得する。

履修上の注意

- ・問題意識を持って質問する、或いはグループワークにおいて、積極的に発言して議論すること。
- ・予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。
- ・学外活動を行う予定がある。

予習・復習

- ・事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。
- ・毎回授業後は復習することで、理解を深めること。

評価方法

- ・授業への参加意欲（20%）、課題提出（30%）、定期試験（50%）で総合評価します。
- ・授業態度が不良の場合は「不可」とします。

テキスト

- ・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

授業概要

社会科学を学ぶ学生として最低限必要な「現代社会」、「経済経営」への基礎的知識と考え方を修得します。授業の内容として現在は以下を計画しています。しかし詳細はこの演習を履修登録した受講生の関心や研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます（したがって変更になる可能性があります）。

この授業は座学形式の「講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業計画

| | |
|--------|---|
| 第 1 回 | 授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の説明等 |
| 第 2 回 | 自己紹介（与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練） |
| 第 3 回 | 基礎数字①：（日本と世界の）人口、面積、GDP、国連予算分担金、ODA、軍事費 |
| 第 4 回 | 基礎数字②：日本の人口動態：少子化・高齢化・人口減少・生産年齢人口の激減 |
| 第 5 回 | 複利計算の暗算法（Rule of 72） |
| 第 6 回 | 「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の発表① |
| 第 7 回 | 英語①：専門用語（経済用語、会計用語等）と英単語。 |
| 第 8 回 | 英語②：日本と外国との位取り（数字 4567890123 を日本はどう読むか、英語ではどうか） |
| 第 9 回 | お金を考える①：ライフステージとお金の効用 |
| 第 10 回 | お金を考える②：お金をいくら稼ぐか |
| 第 11 回 | お金を考える③：金の正しい使用方法 |
| 第 12 回 | お金を考える④：お金を貯める |
| 第 13 回 | 「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」の発表② |
| 第 14 回 | お金を考える⑤：お金を増やす |
| 第 15 回 | お金を考える⑥：お金を貸す、あげる |
| 第 16 回 | 総括。 |

到達目標

- ① 経済経営学部学ぶ学生として最低限必要な「経済経営数値」「英語での専門用語」への基礎的知識を身につける。
- ② テーマ「お金を考える」を通じて、物事に対する自分の考えを整理整頓し、思考方法を修得する。

履修上の注意

この演習では「新聞記事のスクラップ・ブック（＋コメント）」が課されます。教養演習Ⅰ（福永肇）を履修していない学生は「教養演習Ⅰ（福永肇）」のシラバスを参照してください。

予習・復習

- ① 教員から指示された次回授業への準備（事前に調べておくことなど）。
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック＋コメント」の作成と発表準備。

評価方法

課題の提出状況・内容や受講態度、無断欠席状況等を 100 点満点の減点法で評価する。
例えば課題未提出無断欠席がー10 点、課題内容不十分や遅刻がー5 点など（第 1 回授業にて詳細を説明する）。
なお、毎回の発表に対してはフロアの学生による評価が行われるが、これは発表した学生自分を成長させるための参考データとし、成績評価では勘案しない。

テキスト

テキストは授業時に紹介する。資料、参考資料は配布する。